令和8年度認知症高齢者の捜索模擬訓練　報告書

日　時 ： 令和8年10月17日(土)　9:30～12:30
会　場 ： 富谷中央市民センター
参　加 ： 27名

◆講話◆

認知症キャラバン・メイトの本間様、大和警察署生活安全課の相澤様を講師としてお招きしました。

本間様からは、認知症の基礎知識や認知症高齢者への対応の基本、また地域での見守りの大切さなどについてお話をいただきました。相澤様からは黒川地域の現状や SOS ネットワークについて、そして道に迷っている高齢者を見つけた時の通報についてなどをお話いただきました。



＜対応のポイント＞

・対応の心得は 「驚かせない」「急がせない」「自尊心を傷つけない」の3つです。
・早期発見と早期通報が対象者の生死を分けることもあり、とても重要です。道に迷っているような方を見かけたら速やかに警察（110）や公的機関（市・包括センター）に連絡しましょう。『見過ごさない心』が大事です。
・外出して帰って来れないことがあったなど、行方不明になるリスクがある場合は事前に「SOS ネットワーク」に登録をする、「見守り支援事業（みまもりシール）の利用」「GPS 機器の活用携帯」など、様々な備えを重ねておくと良いでしょう。



本間様



相澤様

◆みまもりシール、どこシル伝言板についての説明◆

市で行っている「高齢者見守り支援事業」についてお話ししました。申請されると、事前に本人・保護者情報を登録いただくほか、「みまもりシール」を配布しています。

シールの二次元バーコードを読み込むと、登録されたメールアドレスに速やかに通知が届くほか、「どこシル伝言板」で個人情報を介することなく、発見者とやりとりをして、対象者の居場所や健康状態などを伝えられます。

シール　みほん



QR コードを読み込むと、登録されている保護者（家族や支援者等）にメールで通知が届くとともに、リンクからどこシル伝言板を利用できます。

※コードが読み取れない場合は「識別番号」（赤枠内）をお知らせください。

◆声かけ・通報の訓練◆

道に迷っている高齢者を見かけたら、どう声をかけて、どう対応するか。考えながら、グループごとに実践訓練を行いました。前半の講話で学んだことを活かしながら、「声をかける時は一人で」「目線を合わせる」「ゆっくり穏やかに話す」など、気をつけて対応されていたご様子でした。

対象者が身に着ける「みまもりシール」の二次元バーコードを読み取り、実際に「どこシル伝言板」の利用体験も行いました。対象者を保護した後は、警察に通報する体験もしました。



◆グループワーク・発表◆

訓練に参加して気づいたことや理解したこと、今後心がけたいことをグループ内で話し合い、発表いただきました。実際に声をかけるのは勇気がいる、タイミングが難しい、尋問にならないように聞くのは難しいなどの感想も聞かれつつ、声をかける際には安心感を与えるため「自分から名乗る」「世間話をする」「一緒に歩きながらとか、何かをしながらが良い」など、接し方についても、様々な気づきがあったご様子でした。

警察への通報はハードルも高いと感じる方も多いご様子。「交番に行くのを嫌がる人はどうしたらいいか？」などのご質問もあり、相澤様より「交番に連れて行くのは移動時の事故や怪我が発生するのも心配なので、その場で１１０番してもらって良い」とお話いただきました。 地域で見守り合う大切さを改めて感じられる機会となりました。

グループ発表の様子





◆総評･修了証の授与◆

　認知症の人の心を動かすには「“あなたのことが心配”ということを伝えること」が大事であることや、行方不明になりそうな対象者がいたら、家に閉じ込めるのではなく「安心して外出できる街づくり」が必要と、改めてお話をいただきました。

最後に、参加者へ修了証を授与しました。



展示コーナー

（各包括センターの
認知症地域支援推進員作成）



令和6年度から３か年計画で開催してきた本事業も、今回で無事に終了することができました。
ご参加いただいた皆様、ありがとうございました！